

第 1 回水環境創造プラン検討委員会 会議録

1 開催及び閉会に関する事項

(1) 開会

平成 18 年 5 月 22 日(月) 午後 1 時 30 分

(2) 閉会

平成 18 年 5 月 22 日(月) 午後 2 時 40 分

2 開催場所

岡崎市福祉会館 3 階 視聴覚室

3 出席委員及び欠席委員等の氏名

(1) 出席委員

富永晃宏、片山幸士、芹沢俊介、丸山泰男、飯尾歩、天野博、山田鑛二、金澤博敬、山本恵一、安達重美、大久保正五、内村文夫(代理;中野泰男)、中津川誠(代理;長嶋佳孝)、吉田勇次、真木宏哉

(2) 欠席委員

長谷川明子、川嶋直樹

(3) オブザーバー

企画政策部長 太田恒治(代理;企画政策部次長 仲条紳一)、総務部長 坂田吉久(代理;防災課主幹 石川春男)、市民文化部長 牧野嘉明、経済振興部長 鈴木保宏(代理;経済振興部次長 酒井功二)、土木建設部長 小野博章、都市整備部長 三浦千秋、下水道部長 荻野亨、消防長 平山雅之、水道局長 高橋利明(代理;工務課長 小林健吾)、西三河建設事務所建設第二課長 加藤信

4 説明のための出席した事務局職員の職氏名

環境部長 柴田宗男、環境部調整監 山本恵一、環境保全課長 杉浦哲矢、環境保全課副主幹 糟谷慶一、環境保全課主任主査 蜂須賀功、環境保全課技師 金田智之

5 議題等

水環境創造プラン検討委員会について ほか

6 議事の要旨

(1) 挨拶(岡崎市真木助役)

本日は第 1 回目の水環境創造プラン検討委員会を開催したところ、大変お忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。私も委員の一員でございますが、本委員会を設置し、皆さま方に委員としてご参加をお願いした岡崎市としての立場から一言ご挨拶申し上げます。

私たちの国は大変水に恵まれていると言われております。我々もそう思っていたところでございますが、実際は、最近はどうでもないのではないかと考えています。水源林の手入れ不足による荒廃、農地の減少、そして流域の都市化といったことから、河川の流量が減少したり、水質が悪くなったり、量・質ともに安定していない状況が見受けられるのではないかと感じています。

川というのは自然的な自然ばかりではなく、社会的自然という見方も必要ではないかと考えています。そういう意味では、川は流域や地域の状況を投影したものではないかと考えています。

このたび岡崎市は上流域の額田町と合併し、新しい岡崎市が誕生したところです。水源と川から取水する地がともに一つの流域として岡崎市の中に含まれることとなりました。よって、この合併は川の問題を大きく認識するきっかけになったのではないかと考えており、これからの岡崎市政の大きな課題となると考えています。

本市では、健全な水環境系の構築をしようということでこのたび岡崎市水環境創造プランを策定しようとし、去年度は作業部会、そして準備委員会を開催してきました。そこで、岡崎市の水環境の現状把握、整理、そして今後どうやってプランを作っていくか、ということなどを検討してきました。先ほど皆様方に検討委員をお願いし、これから本格的にプラン作りにお力を貸していただきたいと思います。どうかよろしくお願いいたします。

本日は委員長の選任、そしてプランの概要を事務局から説明いたしますが、スケジュール等についても積極的にご意見をいただきたいと思います。本日、皆様方からご意見、ご指摘を頂戴しまして、これから部会での検討を進めてまいりたいと思っています。どうぞ、様々な角度からご指導を賜りたいと思っています。

ご挨拶に代えさせていただきました。ありがとうございました。

(2) 委員紹介(各委員自己紹介)

・富永晃宏 委員(名古屋工業大学 教授)

専門は河川工学である。乙川については、多自然型川づくりに関わっていた。また、「愛知県河川整備計画流域委員会」にも参加している。これに関連し、乙川沿いをいろいろ現地調査した経験等から本プラン検討に協力できればと思っている。

・片山幸士 委員(人間環境大学 教授)

以前は京都大学の農学部に所属。その頃から森林環境論を研究し、森林と水との関係を扱っていた。4 年ほど前に人間環境大学に移り、矢作川の源流など、森林と水との問題に取り組んでいる。

・芹沢俊介 委員(愛知教育大学 教授)

専門は生物多様性。生物多様性保全の観点から本プランの検討に協力したいと考えている。

・丸山泰男 委員(愛知県環境カウンセラー協会 理事)

水質を中心に愛知県の環境保全行政を 34 年ほど経験してきた。現在は愛知県の浄

化槽協会に在籍している。

・飯尾歩 委員(中日新聞社 論説委員)

環境については農業と関連し、10 年ほど前からゴミ問題のキャンペーン等を担当していた。真木助役のごあいさつにあった社会的自然という観点が非常に大切だと感じており、一緒に考えさせてほしい。

・天野博 委員(矢作川沿岸水質保全対策協議会 事務局長)

本年 4 月 1 日より事務局長を拝命している。20 年間矢作川の水質問題に取り組んできた。

・山田鑛二 委員(菅生川を美しくする会 代表)

市役所の南側を流れている菅生川、地元では「菅生川」と呼んでおり、そこで「菅生川を美しくする会」の会長をしている。

・金澤博敬 委員(市民公募)

岡崎普段は環境関連の仕事をしている。休みの日は大門水辺プラザに訪れる等、水大好き人間である。

・山本恵一 委員(市民公募)

萱葺き屋敷に関連した活動をしている。

・安達重美 委員(市民公募)

専業主婦で、岡崎に転入してきたのも 8 年前。分からないことも多いが、勉強しながら役に立てるようにがんばりたい。

・大久保正五委員(市民公募)

「青木川を守る会」の会長を 6 年努めている。川は年々汚くなっている。日頃水に関心が強く、水をきれいにしたい、社会を明るくしたいというのが素朴な想いである。

・内村文夫 委員(代理 中野課長)(日清紡績(株)美合工場 工場長)

乙川に大きな水利権を持ち、また、工場で使った水を乙川に放流する企業として参加することになった。

・中津川誠 委員(代理 なかしま)(国土交通省豊橋河川事務所 所長)

当事務所は矢作川本川を管理している事務所。平成 18 年に矢作川の河川整備方針が策定され、本年度中に河川整備計画を策定する予定。本委員会の意見を参考にするとともに河川整備計画のほうにも反映させていきたい。また、組織を挙げて協力したい。

・吉田勇次(愛知県西三河建設事務所 所長)

合併により、市街地と大規模な森林が一体となり、市街地と山間地の交流が盛んになるのではないかと感じている。川と道路を通じて交流が深まったり、矢作川から山地への風の道といったものも考えられたりするのではないかと考えている。

- ・真木宏哉 委員(岡崎市 助役)

先ほどのあいさつのとおり。よろしくお願いします。

(3) 議題 1 水環境創造プラン検討委員会について

- ・丸山委員より、富永委員を委員長とする推薦有り。異議なしの声、拍手にて承認。

〔富永委員長挨拶〕

乙川の河川整備計画は河川の計画で流域までは目が届かない。岡崎市は額田町と合併し、水に係る組織がたくさんある。それぞれの組織の垣根を越えて協働していくことが大切だと感じる。全国区の先進事例となるような、実効性のある計画に行きたいと思う。

- ・「水環境創造プラン検討委員会（以下、「委員会」）」は公開を原則とする。
- ・会議録は、丸山委員、天野委員が内容の確認、了承を行う。

(4) 議題 2 岡崎市の水環境の現状について

- ・資料によると、岡崎市内の各河川で大腸菌群数について環境基準を超過している。位置的にどの辺りから基準を超過するようになるのか把握されているか。

(A 委員)

→岡崎市内で大腸菌群数についての基準を達成している地点はない。(事務局)

→また、鹿乗川については、BOD についても環境基準未達成である。(事務局)

→大腸菌群数についての環境基準を達成できないのは岡崎市に限ったことではなく、きれいな川でも高い数値で検出されることがある。大腸菌は、人間のし尿以外に由来するものもあるため、水質指標とする妥当性を検討する必要がある。

(B 委員)

- ・BOD について、上水道の取水口では改善傾向が見られる。しかし、その他の地点については、ほぼ同程度の数値(2mg/l 以下)が続いている。下水道の整備が本当に水質改善に効果があるのかを説明する資料があれば提示してほしい。(A 委員)

(5) 議題 3 水環境創造プランの概要について

- ・第 2 回の委員会が約 5 ヶ月後となる。収集すべきデータ等について意見するためには情報の共有が重要となる。次回委員会までの検討の進捗状況について情報提供してほしい。(C 委員、D 委員)

→第 2 回の乙川部会で現地見学を予定しており、委員会委員にも参加をお願いし、検討状況について情報交換することも考えている。また、検討の進捗について中間報告の実施を検討する。(事務局)

- ・委員会の資料は内容を吟味するため、事前に送付してほしい。(D 委員)

→委員会資料については、事前に送付する。(事務局)

- ・委員会において、どのような調査結果に基づき、何について議論する対象が明確でない。委員として分担すべき作業があるのか、また、必要なデータは岡崎市が収集するのか。(E 委員)

- 議論に必要となるデータについては、自治体が管理しているデータで対応することを考えている。(事務局)

- ・委員会において何かを作っていこうという姿勢があまりないかもしれない。各部会で個別検討した内容について、委員会では何を議論するのかが曖昧になっていると感じる。(C 委員)

- ・委員会の成果としてどんなものを想定しているかが分かりづらい。例えば中水道の導入など、2 年後には取り組んでいく内容を具体的に示せるようにしたい。そのためには委員会の数が少ないのではないか。(F 委員)

- 委員会において基礎資料の収集等から議論することは難しいと考えている。乙川流域については「乙川部会」、その他の区域については「行政部会」で個別検討した後、委員会に検討結果を諮りたい。(事務局)

- 実際の検討に際し、委員に個別に相談することも考えられるので、了承願いたい。(事務局)

(6) 議題4 水環境創造プランの概要検討スケジュールについて

- ・市民懇談会(環境を話し合う会) は、7 月中に順に 9 回開催する予定である。

(事務局)

- ・第 2 回乙川部会(8 月開催予定) では、現地見学会の開催を予定している。

(事務局)

- ・平成 19 年 3 月には、「水環境創造プラン(案)」についてのパブリックコメントを予定している。(事務局)

【配付資料】

第1回水環境創造プラン検討委員会 議事次第
第1回 水環境創造プラン検討委員会 出席者名簿
資料-1：岡崎市水環境創造プラン検討委員会設立趣意書
資料-2：岡崎市水環境創造プラン検討委員会設置要綱
資料-3：岡崎市の水環境の現状
資料-4：岡崎市水環境創造プランの概要について
資料-5：岡崎市水環境創造プランの検討スケジュール(案)
参考資料：「資料-3 岡崎市の水環境の現状」の基礎資料

会議録署名者

水環境創造プラン検討委員会委員長

富 永 晃 宏

水環境創造プラン検討委員会委員

丸 山 泰 男

水環境創造プラン検討委員会委員

天 野 博